河川の連携・地域をつなぐ明日への水　思川開発

思川だより

独立行政法人水資源機構　思川開発建設所

事業用地（南摩ダム貯水池予定地）内の土砂流出・濁水流出防止対策と落石防止対策

現在、思川開発建設所では、事業用地（南摩ダム貯水池予定地）内の土砂流出・濁水流出防止対策と落石防止対策を進めています。

事業用地内において、立木伐採のための進入路などにより地肌が削られている箇所については、植生マット等により地肌を覆い、降雨時の土砂流出を抑制するとともに、沈砂池等を設置して、事業用地内からの濁水流出を抑制・防止する対策を行い、南摩川等への影響を可能な限り低減することとしています。

また、立木伐採等により、道路沿いの斜面に岩石が露出している箇所について、落石防止ネットを設置して、落石を防止し、通行者等の安全対策を行うこととしています。

これらの工事については、７月初旬までに完了させるべく鋭意進めています。

立木伐採の進入路により地肌が削られている箇所

沈砂池

道路沿いの斜面に岩石が露出している箇所

工事の進捗状況

思川開発付替県道4号トンネル工事

現在の状況(平成22年４月)

付替県道4号トンネルは、延長576mのうち約453mを掘削しています。(H22.4.26現在)

付替県道笹之越路工区工事

現在の状況(平成22年3月完成)

付替県道笹之越路工区工事は、付替県道の最上流部にあたる区間で延長380mです。

人事異動

四月一日付で異動のありました職員を紹介します。

機械課長	東谷 正文	長川 仁
工務課同課	中尾 武史	外山 隆司
環境課同課長	向後 和広	子川 直樹
第二調査設計課	大木 洋介	宮本 和樹
同	山口 茂	
第一調査設計課	市川 滋己	
第一整調査設計課長	阿部 孝	井上 匡浩
調整課	松田 英典	
第三用地課	牛山 賢一	
第二用地課長	猿渡 広邦	
同	武井 良三	
第一用地課	鈴木 勝	
経理課長	中曽根 孝人	
経理課調整役	菅原 裕	
◆事業課長	鵜飼 宜行	沼尻 健一
転出者◆	松浦 明旬	
工事課	泉 良	
工務課	荒井 清	
環境課長	岩原 典	
同	花田 和	
調査設計課	俊幸	
第二用地課長		
経理課		
◆転入者◆		

編集後記

4月は新年度の始まりの月です。当建設所も人事異動があり、新たなメンバーでの体制となりました。発刊の期間が空きましたが、思川だより32号を発刊いたしました。今年度もどうぞよろしくお願いします。

編集・発行所

水がささえる豊かな社会
独立行政法人
水資源機構

独立行政法人 水資源機構
思川開発建設所
〒322-0305　栃木県鹿沼市口粟野839-2
Tel(0289)85-1110　Fax(0289)85-1211
ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞhttp://www.water.go.jp/kanto/omoigawa/index.html

ユーザー業務体験研修に参加しました

水資源機構では、今後の水資源機構の中枢を担っていく若手職員が利水者の視点を理解し、将来の業務遂行の礎とすることを目的とした、体験型研修を行っています。
当建設所においても、昨年10月から11月にかけて、新規採用職員を対象とした「農家体験研修」と、入社3年目の職員を対象とした「水道業務体験研修」に、それぞれ2名ずつ参加しました。研修先の利水者が農業従事者と水道事業者という違いはあるものの、機構が供給する水を使うという点ではかわりはなく、2つの事業を担う機構の役割は想像以上に重要であることを再認識しました。
参加した職員は、この研修を通じて、「安全で良質な水を安定して安くお届けする」という経営理念のもと、これからも効率的な業務運営に努めるとともに、あらためて利水者をはじめ国民のニーズに的確に応えなければならないことを銘記しました。

◆農業体験研修

農業体験研修では、茨城県坂東市及び群馬県前橋市の受益農家に滞在し、レタスや水菜などの収穫といった農作業を体験しました。この体験を通して、農作業の厳しさと、水の安定供給の大切さを痛感しました。

◆水道業務体験研修

水道業務体験研修は、埼玉県企業局吉見浄水場で行いました。同企業局は、水道用水供給事業において、給水人口、総水量が全国一位です。研修では主に飲料水を造るための浄水過程を勉強しました。この研修を通して、浄水場の職員の方々のご苦労はもとより、あらためて良質な水の供給の重要性を認識しました。

環境保全の取り組みについて

思川開発建設所では、機構職員の環境に対する意識と知識の向上、工事や調査の関係者への環境保全に対する意識の啓発を目的とした環境学習会を開催しています。今回は、2月に行った環境学習会について紹介します。

◆環境学習会

平成22年2月10日に開催致しました環境学習会は、宇都宮大学農学部森林科学科教授の大久保達弘先生をお招きし、「栃木の里山の魅力と課題」について、ご講演いただきました。
環境学習会は栃木県や鹿沼市等の行政機関、工事・調査関係者の方々にも参加していただき、思川開発建設所職員と併せて60名程の参加者となりました。
里山とは、奥山自然地域と都市地域の中間に位置し、多様な自然の恩恵を人間が受けることができる地域であり、我々は長年それを枯渇させないための伝承知を受け継いできましたが、人々の産業構造の変化にともない、里山が減少する傾向にあり、未来の里山の活性化に向けて、どのような取り組みを行っていくかという内容です。
里山について、新たな認識を与えられる講演会となり、その後の質疑応答においても、活発な議論が交わされました。
また、環境学習会の当日は、隣接する会議室に「展示コーナー」を設け、思川開発事業の環境保全の取り組み内容の説明、事業用地内で採集した昆虫標本の展示、撮影された動植物の写真・ビデオの展示などを行いました。 特にオオタカが子供に餌を与える状況やムカシヤンマのヤゴがえさを捕まえる状況を紹介したビデオは、多くの方が熱心にご覧になっていました。

里山について、熱心に語られる大久保先生

環境学習会に合わせて設置した展示コーナー

ヒナにえさを与えるオオタカ
（平成21年撮影）

土の中で生活し、顔を出し、エサが来るのを待つムカシヤンマのヤゴ（平成21年撮影）

以上のように思川開発建設所では、豊かな生態系を維持できるよう様々な取り組みを行っています。
なお、思川開発建設所では、事業の実施に伴う影響予測・評価・保全対策などをとりまとめた「思川開発事業における環境保全の取り組み」を公表しております。詳しい内容は思川開発建設所のホームページをご覧下さい。

ムカシヤンマ成虫
（平成20年撮影）